

私は今回の東大見学会及び企業大学訪問に参加して多くの学びを得た。出発前は天野教授のお話と東大のオープンキャンパス以外は自分にあまり関係のないことだと思っていた。しかし今になって考えると、そのとき自分は将来の夢に関して医師になることしか視野に入れておらず、とても未熟だったと感じる。

一日目、笹川平和財団・日本財団の方の講演を聞き、ディレクトフォースの方々とセッションをした。笹川平和財団・日本財団の方の講演では世界全体の平和を考え「子供・若者の未来」や「海の未来」などの様々なことに関する助成事業が自分の知らないところで行われていることを知った。また、政府の政策と連動して日本の社会課題の原因について研究し、臨機応変に新規事業・協力援助事業の発掘や助成事業の質的向上を行っていることも知り、利己的に考えるのではなく、国全体の利益を考えて事業を行っていることに感動した。幼いころから「世の中は様々な人の支えによって成り立っている」と学校の先生から言われることがしばしばあった。今回の講演で、今現在自分が生きている世の中が様々な人の支えによって成り立っていることはもちろん、幸せなことに未来まで支えられていることを知った。また、自分はこういった支えに恩返しをするために将来必ず日本という国のために尽くそうと思った。セッションでは、イエメンなどの発展途上国での医療の普及に努めていらっしゃる方、青年海外協力隊としてアフリカ諸国への派遣任務を経験された方など普段関わることのできない貴重な体験をされている方からお話をいただくことができた。内戦による爆発であと少しで病院としての機能を発揮できる状態まで医療器具や医師の派遣が行われていたにもかかわらず、すべてが破壊されたというお話はとても記憶に残っている。もし自分が同じ境遇に立たされたら、間違いなく自分のやっていることは武力の下には意味を成さないと決め付けて仕事をやめてしまうと思うからだ。しかし、話をしてくださった方は「目指してきたものになれたときの爽快感を一度知ってしまうと、それを求めて与えられた環境でがんばってしまう」とおっしゃっていた。私は、この言葉から仕事に対して「楽しい」という感情を持つことで楽しさに向かって諦めずにがんばることができるのだと感じた。また、こういった考え方は自分の仕事に誇りを持たずして生まれるものではないと思うので、自分も将来誇りをもてるような職業に就きたいと思った。また、アフリカ諸国での派遣任務を経験された方は、私たちが高校生の中に身につけるべき能力はコミュニケーション能力だとおっしゃっていた。アフリカ諸国では英語は通じず、現地の言葉で現地の人とコミュニケーションをとる必要がある。しかし、派遣は二ヶ月からという短い期間なので現地の言葉を習得している時間はない。そのため、身振りや手振りで自分の気持ちを表現することが大切だとおっしゃっていた。私は相手に自分の気持ちがうまく伝わらない際に適当な言葉でごまかしがちだったので、将来こういった仕事に就いた際に苦勞しないように日ごろから伝える能力を鍛えて生きたいと思った。

一日目の夜の二高OBやOGの方との交流会では東大の工学部で宇宙工学を学んでいる二

高OBの方からは高校時代は勉強だけでなく、部活や学校行事も頑張り、自分の興味のある分野を見つけるために本を多く読んでほしいという話をされた。また、東京医科歯科大学の歯学部で歯科医を目指しているOBの方からは医学部にしろ東大にしろ自分が志望を決める理由について深く考えることが重要とおっしゃっていた。私たちは学力を重視しすぎて明確な志望理由もないまま偏差値で目標の大学を決めてしまっている部分があるので、大学についてもっと知識を深めて志望理由を明確にすることが必要だなおもった。また、東京という地について研究や人との出会いなどの学業だけでは得られない多くのことがあるとおっしゃっており、様々な人と出会うことのできる東京は何か大きな事業などを興すとなった際に自分にとって有利になるのではないかと考えた。交流会全体を通じて感じたことは二高のOB・OGは大学でも目標に向かって努力を続けているということである。私もこの凄い先輩方のようになれるように頑張らなくてはならないと感じた。

二日目は東京大学のオープンキャンパスに行った。オープンキャンパスでは本当に多くのことを学ぶことができ、行ってよかったと思える点が二つあった。

一つ目は、最先端の研究を知ることができたことだ。私は主に理系の研究所へ行った。そこでは、生物、物理、化学、地学、医学問わず最先端でかつ今までの歴史で実現がなされていないことに挑戦していた。大学生や大学院生に直接研究内容について話を聞いたが、興味を持つと同時にいまいち理解できない仕組みや概念があった。しかし、確実に科学は進歩しているとわかる場所もあり、とても興味深かった。自分は今まで自分自身は研究者には向いていないと決め付けてしまっていたが、大学生になって今回オープンキャンパスで見た研究についてより深く学べるのかと想像すると、理化学系の研究者というものも将来の夢の候補にするべきではないだろうかという思いが生まれてきた。また、今までの自分の中の常識が覆されるような研究もあり、驚きと興奮に胸が包まれた。研究室を案内して下さった学生や教授が自身の研究を紹介するときの雰囲気から日本のそして世界のトップレベルにいる自信のようなものを感じ取った。日本の工学に関する技術は世界の中でもトップにあると言われていたが、その理由が分かった気がした。

二つ目は、東京大学の校風を知ることができたことだ。東京大学は、明治から続く伝統ある大学で、日本で最も古い大学だ。そのため、さまざまな場所や建物に伝統を感じる趣があった。東大卒の日本や世界に影響を与えた方を思い浮かべ、その方々がここで学んだということを見ると、自分もこの歴史ある東大で学びたいと思った。また、周辺には博物館や他大学があるためか同じ旧帝大の東北大学とはまた違った雰囲気だった。特に、講堂は明治の文化が継承されており、とても感銘を受けた。売店にも行き、懇親会で教えてもらったお土産を買った。大学生活の、楽しさや大変さなどいろいろなことが、今までより具体的にイメージすることができ、たとえ東京大学へ行かないとしても、大学受験への興味関心、意欲に繋がった。初の東大キャンパスへの参加はとても充実したものだった。